

作業療法 第41巻 第1号 (通巻226号) 目次

◆巻頭言

[パラとOTと研究と](#) 小澤 恭子 1

◆第55回日本作業療法学会学会長講演

[作業療法の独自性と可能性](#) 柴田 克之 7

◆総説

[フロー理論を応用した作業療法実践に関する文献レビュー](#) 吉田 一平・他 13

◆原著論文

[医療観察法病棟で勤務する作業療法士が職業的アイデンティティを形成するプロセス](#)
. 南 庄一郎・他 21

[地域在住高齢者の地域活動の参加を促進する社会的要因](#) 池田 晋平・他 31

[後天性脳損傷児の通常学級への適応プロセスに関する保護者の経験の質的解明](#)
—複線径路等至性アプローチを用いて— 草野 佑介・他 41

[統合失調症患者に対する地域生活支援での作業療法評価項目の抽出](#)
—デルファイ法質問紙調査での内容妥当性の検討— 中村 泰久・他 51

[終末期がん患者に対する作業療法士の実践自己評価尺度の開発](#)
—妥当性・信頼性の検討— 池知 良昭・他 61

◆実践報告

[生活行為向上マネジメントを用いて重度訪問介護の利用による外出支援を実現した
長期療養患者の事例](#) 村田 明穂・他 70

[脳出血後における上肢麻痺の回復と白質の変化の関連性](#)
—発症からの時期が異なる2症例による検討— 庵本 直矢・他 78

[脳卒中後左片麻痺と左半側空間無視を伴う全般的認知障害を呈した事例に対する
病態に応じた工夫を施した複合的アプローチの試み](#) 田中 卓・他 86

[注意機能の変化をみる段階的作業課題とその利用](#)—課題達成度の変化からみた注意機能
の改善プロセスと臨床的推論— 谷利 美希・他 94

[急性期脳卒中患者に対し、ガイドラインを用いた Shared decision making に焦点を当て
た上肢機能アプローチを実施した一例](#) 秋葉 周・他 106

[回復期における脳卒中後片麻痺上肢に対し、課題指向型促通反復療法を実施した一例](#)
. 藤本 皓也・他 113

[医療観察法対象者の地域移行における MTDLP の有用性](#)
—指定通院医療機関との連携による就労移行支援— 南 庄一郎 123

[特発性に左中指伸筋腱断裂を呈した Jaccoud 関節炎を伴った
全身性エリテマトーデスの一例に対する作業療法](#) 稲田 雅也・他 131

編集後記

▶2022 年のはじめに発刊される本号は、第 55 回日本作業療法学会学会長講演「作業療法の独自性と可能性」に始まり、フロー理論を応用した作業療法、医療観察法病棟での作業療法、高齢者の地域活動参加を促す作業療法戦略、脳損傷児の通常学級への適応プロセス、統合失調症患者に対する地域生活支援、終末期がん患者に対する作業療法と続く。改めて、作業療法の守備範囲の広さに驚かされると同時に、作業療法の独自性や専門性とはいったい何なのか、考えさせられた。2022 年、どんな作業療法が誕生し展開されるのだろうか。ワクワクする思いとともに、自分は後進に何を残すことができるかと身の引き締まる思いで新年を迎えた。 (E・M)

▶先日、元教え子たちと ZOOM で交流をした。臨床数年目の彼女たちは、実践でのやりがいとストレス、仕事と生活のバランス、今後の自身の生き方など、様々な思いを抱えていた。その中で「周りはずすごい人達だと思う」という言葉があった。周囲が研究をしているから、教員だから、何かの団体に役職についているから「すごい」と感じさせられているのかと、悲しく思った。だがそのあと、「そうなりたいかと言われると、そうは思わない」と続いた。そうだ。目の前の対象者に真摯に作業療法を提供することに、上下関係はないはずである。人によって作業は違う、それだけのことだ。胸を張って自分の作業に向かってほしい。その積み重ねが未来の作業に繋がるはず。 (S・Y)